

# きぼう

青少年育成広報

第 35 号  
 発行人  
 青少年育成那珂市民会議  
 会長 関 守



水戸市少年自然の家 (R 4. 7.16)

なかっこ・キッズクラブ「ペットボトルロケット」を飛ばそう！

### 夢に向かって今できる事

青遙学園 那珂市立額田小学校 六年 榎原 和蓮 さかきほら  
 私には、将来、高齢の方や体が不自由な人、困っている人を助けたいという夢があります。私は人の役に立つ事が好きで、「ありがとう」と言われる事がうれしいので、大人になったら、困っている人を助ける活動をしていきたいと思っています。

そのために、私が今できる事から始めていきたいと思っています。身の回りの困っている人達を助けたり、みんなで協力をしたりしていきたいです。

### 命の大切さ

青遙学園 那珂市立第二中学校 九年 高島 脩矢 たかしま しゅうや  
 「命の大切さ。」私たちは本当の意味で気づけているでしょうか。身近に命の危険があればその大切さに気づくかもしれません、日常生活で命について考える機会はそう多くありません。

現在、ロシア・ウクライナ間の戦争により、多くの命が簡単に奪われる出来事が起きています。日本では報道こそ行われますが、その現状を自分事として捉えている人はどれほどいるでしょうか。

平和な国に生まれ、死が身近でないからと、命に対して軽率な発言が飛び交う現状に私は疑問を感じています。私たちが様々な発信を行うことで、多くの人が命に対する考えを見つめ直せること。それが私の願いです。

### 青少年健全育成のまち宣言

- 1 市民の英知を結集し、みんなで積極的に青少年を育成しよう。
- 2 よい環境をつくり、心豊かでたくましい青少年を育成しよう。
- 3 自立の心を養い、連帯性や社会性に富む青少年を育成しよう。

『愚直さ』



青少年育成那珂市民会議  
会長 関 守

「愚公、山を移す」という話がある。北山に愚公という老人が住んでいて、二つの山に道が閉ざされて、人々は困っていた。そこで、愚公は山を削って真つすぐな道を通そうと言い出したが、「老人にできる訳がない、愚かなことだ」と村人が嘲笑いながら言い出した。愚公は、「たとえわしが死んでも、子どもがいる。子どもに孫ができ、また、孫が子を産み、子々孫々絶えることはない。しかし、山は増えることはない。どうして、平らにできないことがあるか」と言ったら、村人は返す言葉が無かった。それを聞いた山の神が天帝に報告し、天帝は、愚公の誠意に感動し、山を平らにってしまったという話である。良い意味での愚直さである。何時の時代も青少年育成活動は、終わりのない旅のようでもある。一意専心の気概を持って、愚公のように愚直に役割を全うしたい。

副会長です  
宜しく願います



那珂市子ども会育成連合会会長  
宮本 幸太



那珂市PTA連絡協議会会長  
桑澤 直亨



那珂市青少年相談員連絡協議会会長  
森島 栄子



那珂市連合民生委員児童委員協議会会長  
大和田 優

令和4年度 事業計画

月	主 な 事 業 (実施場所)
5	第1回企画委員会
6	第18回 親子の集い(常陸太田市西山研修所) 総会(らぼーる)【書面議決】・第1回合同専門部会【中止】
7	第1回広報部会 第1回育成部会 那珂市子ども会親睦競技大会(なかLuckyFM公園)【中止】
8	第1回家庭部会 第2回企画委員会
9	第2回広報部会
10	「青少年の主張」発表大会並びに表彰式典(らぼーる) 第3回広報部会 「親が変われば、子どもも変わる」運動那珂市推進大会(らぼーる) 青少年育成広報「きぼう」第35号の発行
11	市民会議による「あいさつ・声かけ運動」(各地域)
12	「家庭の日」図画・作文発表会並びに表彰式典(らぼーる) 「家庭の日」作品展示会 第2回家庭部会
1	第2回育成部会 第4回広報部会 第3回企画委員会
2	第5回広報部会
3	第4回企画委員会 青少年育成広報「きぼう」第36号の発行

※新型コロナウイルスの影響により中止になる事業があります。

令和4年度 青少年育成那珂市民会議  
基本方針と重点目標

基本方針

未来を担う青少年が、心身共に健やかでたくましく、自主性・社会性に富んだ人間に育つことは、地域住民の願いである。しかしながら、家庭や地域の教育力の低下や、大人の規範意識の低下、情報化社会の進展等により人間関係の希薄化が進み、青少年をとりまく状況はいまだ厳しいものがある。青少年育成那珂市民会議では、これらの状況を踏まえ、青少年の健全育成のために取り組んでいく。

重点目標

- (1) 青少年のための地域との協働による地域体制づくり
- (2) 健全な家庭づくりの推進
- (3) 広報活動の充実強化

具体的実践事項

- (1) 「あいさつ・声かけ運動」を進める。
- (2) みんなで地域づくりをする。：地域づくり活動
- (3) 子どもたちに各種の活動への参加を勧める。
- (4) 令和4年度 重点推進事業：「親が変われば、子どもも変わる」運動

構成団体紹介

〔那珂を良くする会〕

会長 加藤 昌次

那珂を良くする会は、平成7年に発足した青少年健全育成のボランティア団体です。

その頃は、元気がいい青少年が今よりも多く、それを「何とかしなければならぬ」という気運が高まり、約20人の有志が集まり会を結成しました。月1回の定例会では、今後の取り組みをどうするかを話し合い、様々な活動を行ってきました。

その中で、「青少年健全育成の看板をつくらう。」ということになり、各地区に看板を立てました。その看板のスローガンの内容は、『良い』『悪い』大人がすれば子どもまねる』や『シンナーは知らない内に身のはめつ』です。他には、見回り活動や声かけ運動もしていました。

また、青少年をスポーツで盛り上げようというねらいで、姉妹都市である秋田県横手市にスポーツ少年団を連れて交流試合に行ったこともあります。

しかし、発足当時のメンバーが高齢化し、今では活動が休止している状態です。若い世代にもこの趣旨を理解してもらい、ぜひ、加入していただきこの活動を継続していただきたいと思います。



令和4年度 青少年育成那珂市民会議 専門部会員名簿

● 会長 関 守

● 副会長 大和田 優 (民児協) 森島 栄子 (相談員) 桑澤 直亨 (市P連) 宮本 幸太 (市子連)

Table with 4 columns: Department Name (Content), Organization, Department Chair, and Deputy Chair. It lists members for Family, Youth, and Publicity departments.

# 「青少年の主張」発表大会

令和4年10月1日(土) 於・総合センターらぼーる



この大会は、青少年が日常生活の中で感じたことや考えていることを広く社会に訴えることにより、将来に向かって自信と誇りを持つとともに、少年の健全育成に対する一般市民の理解と関心を高めることをねらいとして、毎年開催しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、高校生及び市消防本部代表の主張発表は行いませんでしたが、市内の各中学校代表は、普段から暮らしや社会について感じることを堂々と発表することができました。紙面では、10人の主張文の題名と氏名を紹介いたします。

## 各中学校代表者

普通つてなんだろ

ばら野学園 第一中 八年 豊田 悠生

自分の色で輝く

ばら野学園 第一中 八年 千葉 夏帆

言葉のナイフ

青遙学園 第二中 八年 東 恵理亜

「普通とは人それぞれ」

青遙学園 第二中 九年 谷村 愛乃

未来のロボットに望むこと

緑桜学園 第三中 八年 長山 颯真

人と言葉

緑桜学園 第三中 九年 紺野 真希

地球の明日

わかすぎ学園 第四中 七年 熊田 ここね

地域コミュニティの重要性

わかすぎ学園 第四中 八年 岩永 美桜

好きの力

白鳥学園 瓜連中 九年 栗原 朱音

たくさんの愛

白鳥学園 瓜連中 九年 鈴木梨央奈

## 講評

青少年育成那珂市民会議

育成部会長 山野 圭三

発表された10人の生徒に感謝の気持ちを込めて講評をさせていただきます。

まず、自分の特徴やLGBT、身体的な障がいなどを例に挙げ、「普通」という意味を考え直したり、一人ひとりの生き方を見つめ直したりする主張が多くありました。心の内面を深く考えていることにとっても感動しました。

次に、現代的な課題への主張では、ロボットへの期待、地球環境を守るためにできること、少子化による地域コミュニティの希薄化、SNSによる誹謗中傷などについて、自分なりの提言をされて大変勉強になりました。

また、自分の成長には周りの人たちの愛情、環境が大きく関わっていることを述べ、感謝の気持ちを素直に表現している主張もありました。

全ての発表において主張点がはつきりしていて、文章表現も巧みでした。これからの成長が期待されます。

**「第18回 親子の集い」**  
 令和4年6月25日(土)  
 常陸太田市西山研修所

「家庭の日」(毎月第3日曜日)の普及と子ども会活動の充実を図るため、市内子ども会会員の親子を対象に、日帰りでの研修を実施しました。今年度は、44人(幼児2人、小学生23人、保護者19人)が参加し、レクリエーションや創作活動(ウッドクロック作り)を行いました。当日は熱中症警戒アラートの発令により急きょプログラムが変更となりましたが、親子や友だち、他の小学校の参加者たちと協力しながら、様々な活動に主体的に取り組み、充実した一日を過ごすことができました。また、この研修を通して子ども同士の間、親睦と青少年リーダーの育成を図ることができました。

《参加した児童の感想》

○楽しかったです。特に、ぼくは工作が好きなので、時計を作れたのがうれしかったです。また、他の工作を試してみたいです。今度参加するとき、水でつぼうを作りたいです。次こられるのが楽しみです。  
 ○水あそびがしたかった。またどうぶつさがしもしたかったです。でもたのしかったです。  
 ○気温が高くて水遊びはできなかったけれど、ウッドクロックを作れ



てとても楽しかったです。ウッドクロックでは最初しっぱいしてしまいましたが、裏に書くことになってしまったけど2回目は上手にかけてまわりました。家にかざって使いたいと思います。  
 ○たんじょう日じゅんにならぶのがむずかしかったけど、たのしかったです。あとは、とけいをつくるのもむずかしかったけどぜんぶたのしかったです。もう一回きたいって思っています。  
 ○ウッドクロック作りで、お母さんと協力しながら、世界で1つだけの時計が作れて、よかったです。動物発見ゲームができてなくて悲しかったです。でも、レクリエーションがとても楽しくできてよかったです。また、来年は妹に参加してもらいたい。

《参加した保護者の感想》

○小5男児と参加しましたが、プチ反抗期に入っており、家ではスキップも少なくなりましたが、今日は親子で楽しく過ごすことができました。  
 ○たくさんの準備や工夫ある活動を考えていただき、ありがとうございます。家の中では、家事をしながらとなる場合が多いですが、今日は我が子とゆっくり過ごすことができました。実りある時間となりました。大変お世話になりました。  
 ○久しぶりに長女と2人だけで過ごした時間でした。なかなかない時間なので、とても楽しく過ごすことができました。スタッフの皆さんご準備等ありがとうございます。  
 ○親子で協力して頭をつかってクイズを解いたり、ゲームしたり、時計を作ったりとても楽しい一日でした。当日の朝、熱中症警戒アラートが出てしまいました。室内の活動に切り替えたりとスムーズな対応でした。ありがとうございます。  
 ○楽しく参加することができました。水でつぼうは作れなくて残念でしたがウッドクロック作りもとても楽しかったです。レクリエーションでは、はじめて会った友達



とも仲良くでき、次の活動でも仲良く活動することができました。充実した1日を過ごすことができました。ありがとうございます。  
 ○熱中症警戒アラートが発令されて野外活動が中止になり、男児は体力をあまり使わずに少々の残念がっていました。水鉄砲作り、やらせてみたかった。昨年度と今年度と参加させていただき、とても充実した気持ちになりました。他のご家族と交流できたのは本当にありがたいことです。スタッフの方々の丁寧で親切な対応にも感謝いたします。



人の命と生物の命

第四中 九年 野口 晃奨

ポケットの中を探る。何も出てこない。不思議に思いながら、もう一度ポケットの中を探る。やはり何も出てこない。僕は気付く、忘れ物をしたことに。このときっかけは、先日ある数字を目にしたことだった。二百。この数字は、去年茨城県動物指導センターに収容された猫の死亡頭数だ。ウクライナの事や、元首相銃撃事件で命の重みが問われる今、この数字は僕にとって無視できない数字だった。そこで僕は、保護猫活動を行っている所へ募金することを決めた。

しかし、その所へせっかく行ったのに募金のお金を忘れてしまった。僕はただ自分に失望するだけだった。

帰り道、僕は考えた。忘れた募金でどれだけ命が救えるだろう。今なお多くの生物が死んでいるこの状況を伝えるにはどうしたらいいだろう。自分にできることは何だろう。命の尊さ、多くの生物が置かれている状況について深く考えさせられた一日だった。

夢への方程式

第四中 九年 中嶋 瑛里奈

目標、それは時に人を変えるものだと思います。夢という大きなゴールに近づいたための道しるべ。私は受験生になった今、それを強く感じています。

今まで部活に注いでいた情熱は、引退をきっかけに勉強に向けられました。この情熱を更に強めたのが高校見学でした。見学前には、塾長や親に期待され、プレッシャーが私の心の中に存在していました。しかし、志望校見学後にはそのプレッシャーは消え去り、難関校合格に向けてより一層勉強に励むことができています。塾で行われた合宿では、気が遠くなるほど勉強しました。同じ目標を持ったライバルでもある仲間との授業に本気で取り組み、自信を手に入れたと同時に「上には上がいる」と痛感しました。夢に向かって努力を惜しまないことは、受験を制す鍵になるはずです。

ひとときの楽しさを優先し何となく過ごすのも人生、大きな夢に向かってがむしやらに努力するのもし生。私がどっちの道を進みたいのかは、もう決めていきます。



まちづくり委員会



木崎地区まちづくり委員会は、旧木崎中学校の跡地にある建坪約53坪の単独館です。

ですから収容できる人数も少ないため、コロナ禍のなか部会会議さえ開催できないことが度々ありました。

このままの状態では地域の活動が停滞しないように、委員会でも「二ユースポーツ教室」の開催など、色々事業の準備を進めているところです。さて、去る7月2日に木崎小学校創立150周年を祝う式典が実行委員会の主催で開催されました。コロナ禍かつ猛暑日が続く中での式典だったので、教室と会場をつなぐリモート開催でしたが、児童たちによる地域伝統芸「ひよっとこ踊り」の披露などもありました。これは市内小学校の創立記念の先駆けとなる開催であり、地区の歴史を実感するとともに、地域と学校が一つになったイベントでした。

まだまだコロナ感染症の終息が見えませんが、だからこそ地域をつなぐ「絆」のツールとして、まちづくり委員会の役割が求められているのでは

ないかと、改めて考えさせられるところです。



編集後記

秋晴れのお昼時になると田んぼではしゃぎ回る子ども、大人の笑い声が聞こえる。変わらない、ふるさとの笑顔。変わらない、ふるさとの味わい。家族のぬくもりが感じられる。今はコンバインの音が響きわたる、このような光景はもう見られないのか。

コロナ感染の収束が見通せない状況下、やまない雨はないというが、一人ひとりがどんな些細なことでも、明るい希望とすることが、大切ではないかと思う。

広報部会長 袴塚 耕二